

FREE

ご自由にお持ちください。

No.831
2022 December

12

岐阜県の森林・林業

も り
森林のたより



News of the forest



森林環境譲与税のお悩み相談は、地域森林管理支援センターへ 第2弾
～受講して初めてわかる森林のこと～



地域森林管理支援センターが実施する『市町村林務担当職員研修』の様子

●詳細は5ページをご覧ください



編集・発行 公益社団法人 岐阜県山林協会

E-mail sanrinag@quartz.ocn.ne.jp

http://www.g-forestry.or.jp (公社)岐阜県山林協会の情報をご覧ください。

開催日	行事名等	内容等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	場所
			申込(問合せ)先/TEL
12月9日(金) 12月11日(日) 12月18日(日)	スプーンクラブ	●一般の人々に木工に親しんでもらう機会を作るため、月に3~4回程度、伐ったばかりの生木を斧やナイフで削る「グリーンウッドワーク」の手法でスプーンを作る「スプーンクラブ」を実施する。	ぎふ木遊館 TEL 058-215-1515
12月25日(日)	曲げわっぱづくり & 漆体験	●対象：小学4年生以上の親子 ●定員：20名 ●受講料：無料 別途材料費6,000円/個が必要です。 ※詳細は森林総合教育センター(morinos)のHPをご覧ください。	岐阜県立森林文化アカデミー 森の工房(美濃市) 森林総合教育センター(morinos) TEL 0575-35-3883
令和5年 1月21日(土)	岐阜県みどりの少年団 活動発表大会	●みどりの少年団が日頃の活動について発表します。 morinosでの交流行事も計画しています。 ●時間：10:00~15:00(予定) ●参加の申し込みを受け付けています。	岐阜県立森林文化アカデミー 森の情報センター、morinos (美濃市曾代) 公益社団法人岐阜県緑化推進委員会 TEL 058-273-7577 FAX 058-273-7547



表紙●詳細は5ページをご覧ください。

目次 Contents

イベントカレンダー(一般向け) 2
 城山小学校みどりの少年団が
 全国緑の少年団活動発表大会で発表しました 3
 (仮称)森林サービス産業推進協議会の会員を募集します! 3
 令和3年度森林環境譲与税を活用した県による市町村支援について 4
 森林を取得したときは市町村への届出が必要ですよ! 4
 森林環境譲与税のお悩み相談は、地域森林管理支援センターへ第2弾 5
 第62回治山研究発表会・第60回治山シンポジウムの開催 6
 ウッドショックへの対応 6
 山林協会通信8 7
 山の歳時記 208 花もち 8
 山のおしやまむし(377) 9
 ぎふ木遊館通信 10
 morinos プログラム紹介!! 11
 木の香をまぶの施設(117) Takahashi Farm 豚舎 12
 森林と人を活かす知恵(119) 身近な材をつかうということ 13
 シリーズ『森林・環境税』で緑豊かな清流の国ぎふづくり(8) 14
 研究コーナー 15
 針葉樹人工林における貧植生箇所を広域的に把握する取り組み 15
 航空レーザー測量データの活用 16
 普及コーナー 主伐・再造林の取組事例 16
 スマート林業通信(30) 17
 GNS測量機器が農林事務所に配備されました 18
 国有林の現場から(74) 日本の文化を守るヘリコプター集材 19
 林業者向けお知らせ 20
 市況 20

城山小学校みどりの少年団

が全国緑の少年団活動発表大会で発表しました

「全国緑の少年団活動発表大会」が11月12日に大分市の iichiko 総合文化センター 音の泉ホールで開催されました。今年度の「みどりの奨励賞」に選ばれた「城山小学校みどりの少年団」(海津市)を代表して村瀬純花(むらせ あやか)さん、岡田梨衣咲(おかだ りいさ)さんが活動発表を行いました。

城山小学校みどりの少年団は、令和2年度に結成したばかりですが、今回は、「ふるさと城山 自然と伝統」をテーマに1年間の活動の様子を元気よく発表しました。3年生は、城山の森の中でお気に入りの木を見つけ、木の名前を調べ、集めた葉っぱで図工作品を作って、身近な自然をみんなで体験しました。5年生は、柿の栽培に取り組み、地域の人の協力を得ながら、摘蕾、摘果など、一連の作業を体験し、力を合わせて1800個ものカキを収穫し、農家の人の大変さや働くことによって人の役に立つ喜びを感じることができました。こういった身近な自然や特産物を大事にし、新たな発見や喜びを感じる姿に会場からは大きな拍手をいただきました。

大会終了後の交流では、秋篠宮皇嗣殿下 同妃殿下に活動のあらましを説明した後、参加した緑の少年団たちとの交流集会を楽しみました。翌13日には第45回全国育樹祭式典行事に臨み、緑の少年団を代表して全国育樹祭大会会長賞を受領し、「緑の贈呈」では、大分県のみどりの少年団が育てたサザンカなどの苗木が贈られました。

大会を振り返り、城山小学校みどりの少年団は、とても緊張したと思いますが、貴重な体験ができたことと思います。これからも緑や自然、地域を愛する人へ健やかに成長されるとともに、みどりの少年団活動の伝統を引き継いでいってほしいと願っています。



団旗の入場受渡



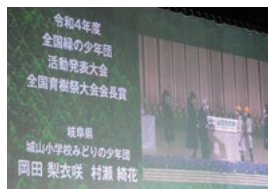
発表の様子(これから始まり)



発表の様子



表彰



全国育樹祭大会会長賞を代表受領



緑の贈呈(サザンカ)

【公益社団法人岐阜県緑化推進委員会 専務理事 黒崎 隆司】

(仮称) 森林サービス産業推進協議会の会員を募集します!

近年、人々の価値観やライフスタイルの変化にともない、森林空間を積極的に活用したいという期待が高まり、森林へのニーズは多様化しています。

このため、岐阜県では、豊かで多くの価値を有する森林空間を活用することで、山村地域に新たな雇用と収入機会を生み出す「森林サービス産業」の育成と普及に取り組むため、協議会を設立します。

<協議会の事業内容>

1. 情報発信

ポータルサイトやSNS等により、会員の皆様の事業内容をPRします。

2. セミナー等の開催

会員向けセミナーや会員交流会、ビジネスマッチングに向けた異業種交流会を開催します。

3. 起業支援、既存事業者支援

- 森林サービス産業に取り組む上での課題を解決するため相談窓口を設置します。
- 専門家による課題解決へのアドバイス、新規事業計画や経営改善計画の策定などの支援を行います。
- 会員の皆様の要望に応じた補助制度を県において検討します。

<会員の対象となる方>

- 【一般会員】 ●県内で森林サービス産業を営む団体・事業者等
●県内で森林サービス産業の起業等に興味・関心のある個人・団体・事業者等
●県内で森林を所有・管理している個人・団体・事業者等
- 【市町村会員】 ●県内の市町村



<会費(一般会員)> 年間 10,000円 ※令和5年度の会費からお支払いいただく予定です。

<入会方法> 岐阜県ホームページより申込用紙を入手いただき、メール、郵送またはFAXにて、下記の宛先までご提出ください。

岐阜県 森林サービス産業

検索

申込・問合せ先

森林活用推進課 森林サービス産業支援係
TEL:058-272-8821 FAX:058-278-2702
E-Mail:c11513@pref.gifu.lg.jp



令和3年度森林環境譲与税を活用した 県による市町村支援について



森林環境譲与税は、令和3年度には国から全国の地方公共団体に対し400億円が譲与され、うち岐阜県には約2億円（県内の市町村には合計で約11億4千万円）が配分されました。本県では、この譲与税を活用して、税の趣旨に基づき市町村による森林整備の促進等の支援を実施しましたので、その内容をご紹介します。

事業内容	決算額（千円）
●市町村の体制等支援 <ul style="list-style-type: none"> 地域森林管理支援センター等による市町村林務行政支援 市町村による森林整備を支援する地域森林監理士の活用 森林クラウドによる高精度森林情報の提供 森林整備技術の研究開発 	108,814
●森林整備の担い手確保・育成 <ul style="list-style-type: none"> 森のジョブステーションぎふ等で実施する担い手対策 林業事業者の経営者等向けの研修会の開催 	32,256
●木材利用の推進 <ul style="list-style-type: none"> 県産材利用促進に向けた研修等の実施 	9,892
●普及啓発 <ul style="list-style-type: none"> 森林総合教育センター（morinos）で実施する森林教育プログラムの開発、普及啓発等 	24,622
合計	175,585

※各項目の決算額は千円未満を四捨五入しているため、合計額とは一致しません。※執行残額は令和4年度補正予算で事業化しています。

譲与税の活用により、市町村の体制の支援をはじめ、担い手確保・育成対策、普及啓発等の施策を横断的に実施することで、令和3年度は、23市町村が森林経営管理制度に基づき森林所有者へ意向調査（1,925ha）を実施し、経営管理権集積計画を策定した8市町の内6市町において、市町村森林経営管理事業により、これまで適切に管理されていなかった森林の整備（126ha）が実施されました。また、林業就業者の確保・育成に向けた支援により、県外から16名の新規就業につながりました。普及啓発では、森林での体験を通じ、12,000名以上の方に森林への理解を深めていただきました。

岐阜県における森林環境譲与税の使途をインターネットで公表しています。詳しい事業内容や事業効果については、県ホームページをご覧ください。

（県HP「森林環境税・森林環境譲与税」：<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/104589.html>）

●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-1111 内線（4121）森林活用推進課森林吸収源対策室森林吸収源対策係まで

森林を取得したときは 市町村への届出が必要です！



新たに森林を取得したときは、森林法の定めにより届出が必要です。注）立木のみを取得した場合は、届出は不要です。

1 なぜ届出が必要？

行政が森林所有者に対して森林の整備等に関する助言をしたり、事業者が所有者に働きかけて間伐等の整備を行う森林を集約化して効率を上げたりするために、森林所有者を把握することが重要であるからです。

2 どのような場合に届出が必要？

個人か法人かによらず、売買、相続、贈与等で新たに森林を取得した場合に必要です。ただし、国土利用計画法に基づく土地売買契約の届出を行った場合は、森林の土地の所有者届出は不要です。

3 いつ、どこへ届出を出すの？

所有者となった日から90日以内に、取得した森林のある市町村長に届出書を提出します。

4 どのような届出書を提出するの？

「森林の土地の所有者届出書」に次の書類を添付して提出してください。

添付書類 ①取得した森林の位置を示す図面（任意の図面に大まかな位置を記入）

②取得した森林の登記事項証明書、売買契約書の写しなど権利を取得したことがわかる書類

●届出書の様式など詳しくは、林野庁のホームページ（「森林の土地の所有者届出制度」で検索）をご覧ください。

5 もし、届出を出さない？

届出をしない、または虚偽の届出をしたときは、10万円以下の過料が科されることがあります。



【林政課 森林計画係】 ●お問い合わせは、市町村林務担当課または県庁林政課森林計画係（TEL 058-272-8471）まで

森林環境譲与税のお悩み相談は、 地域森林管理支援センターへ

第2弾

～受講して初めてわかる森林のこと～

地域森林管理支援センター長 荻巣 雅俊

森林経営管理制度を推進するにあたり、森林や林業の知識は、欠かすことができません。特に、市町村担当者で初めて林務担当になられた方は、どこから勉強をはじめたらよいかさえ、わからないといった声も多く聞かれます。また、一方では、せっかく森林環境譲与税が譲与されるのだから、特色のある使い方をしたいという声もあります。

そこで、今年度から、市町村担当者が業務を進めるうえで必要な知識・技術を習得し、関係者間で濃密な情報共有や連携ができるよう基礎的なコースと特徴のある事業の推進支援を狙いとしたより専門的な実践型コースの2コースに分けて研修を実施しています。

広く浅く体系的に 基礎研修

ご存じのように森林、そこに生えている木も土壌も地形も自然物であり、同じものは二つとありません。画一的でないそれを管理していくことは、容易ではありません。7月5日の第1回研修では、その意義を地域森林監理士の小森胤樹さんが分かり易く講義されました。これを皮切りに、計画制度、法律、森林整備、木材流通など10月末までに計7回実施し、延べ97名に参加していただきました。初めての試みでしたが、受講者からは、体系的でわかりやすかったという意見を多数いただきました。



小森胤樹氏研修

地域の特色を活かせるように 実践型研修

基礎研修とは対照的に、重要なカテゴリーを深く掘り下げるのが実践型研修です。地域の特徴を活かして、森林環境譲与税を活用した取組みを各市町村に実施してもらうことに狙いがあります。10月末までに計10回実施し、延べ140名の方に参加していただきました。

例えば、9月27・28日は、測量等のデジタルデータの活用に詳しい元岐阜県森林研究所長の古川邦明さんを講師に招き、市町村担当者や地域森林監理士が参加し、森林経営管理制度でのデジタルデータの活用方法について学びました。【表紙写真】具体的には、ぎふ森林情報WebMapやスマートフォンを活用した調査方法を現場で試行するなど実践的な講義となりました。受講者からは、森林所有者の境界の明確化の一助にしたいという感想も上がりました。

また、9月30日は、森林施業に詳しい造林技術研究所代表の横井秀一さんを講師に招き、森林経営管理制度で行う森林施業のあり方について学びました。具体的には、市町村が管理しなければならない森林はどんな状態か、目指すべき森林像はどのような姿かを、前提となる基本的知識も含めて事例にそって学びました。横井さんからは、これらを進めるにあたり、県や支援センターの技術的支援についての提言も頂きました。



横井秀一氏研修

最後に

試行錯誤を重ねながらの研修実施は、多くの知見を得るとともに講師の先生や参加者の方から沢山の助言も頂きました。例えば、リモート参加の方法、研修内容のアーカイブ作成、研修時間の割り振り等々です。これらについては、整理し、第三者評価委員会へ諮り、来年度に向けて改善を図ってまいります。

充実した研修となった大きな要因は、お忙しい中、全国的にも著名な専門家の方々に講師を引き受けて頂いたことです。この紙面をお借りして、研修に携わっていただいた講師の先生はじめ関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

森林経営管理制度や
森林環境譲与税に関する
お悩み相談は？

「地域森林管理支援センター」まで

TEL:058-201-5013 FAX:058-275-4398 E-mail:f-shien@g-moriren.or.jp
〒500-8356 岐阜市六条江東2丁目5番6号 岐阜県森林組合連合会内

第62回治山研究発表会・第60回治山シンポジウムの開催



写真-1 岐阜県発表の様子



写真-2 第60回治山シンポジウム

令和4年9月28日、29日に国立オリンピック記念青少年総合センターにて、第62回治山研究発表会・第60回治山シンポジウム（主催：治山研究発表会・治山シンポジウム実行委員会）が開催されました。治山研究発表会は、治山事業の発展に資することを目的に、全国の治山事業関係者が集い、日頃から研究してきた技術研究等の成果を発表する場です。今回の発表会では4部門、全33項の発表があり、岐阜県からは調査・計画策定等における取組として、「山地災害危険地区の事業化優先度判定における航空レーザ測量データの活用について」（恵那農林事務所）を発表しました。また、治山シンポジウムでは治山分野でのICT技術の活用事例や今後の展望等が討論されました。

この発表会・シンポジウムが県内治山事業関係者の励みとなり、これからも治山事業の発展のため研鑽を積まれることを期待します。

【森林保全課 後藤 謙宜】



ウッドショックへの対応



「ウッドショック」今となっては聞きなれた言葉となりましたが、当時は森林行政に携わる私たちにとっても大変な驚きでした。木材価格が約2倍に高騰することを誰が予測できたでしょうか。ウッドショックを踏まえ、今後の県の取り組みについてご説明します。

ウッドショックの影響

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、米国では木材需要拡大と木材価格が高騰し、国内では輸入材の確保が困難になり、輸入材価格は新型コロナウイルス感染拡大前の約2倍に上昇しました（グラフ①）。輸入材から国産材への需要が増加し、国産材製品価格も新型コロナウイルス感染拡大前の約2倍に上昇しました（グラフ②）。輸入材及び国産材の価格は下降傾向にあります。現段階でも高値を維持しています。

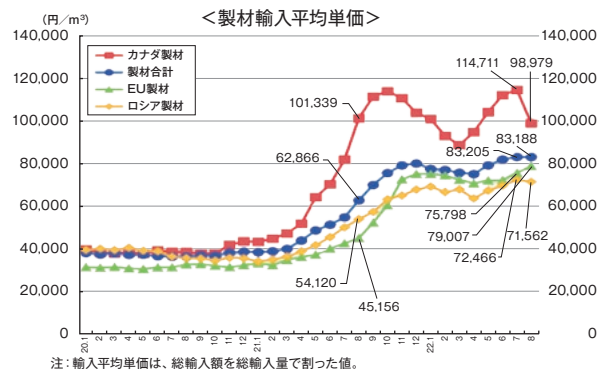
ウッドショックの状況下では、県産材を多用する工務店では価格上昇はあったものの製材品の確保はできていました。一方、輸入材を多用する工務店は、プレカット工場から予約受付の制限、納期延期、値下げ要請などがあり影響は多大なるものでした。

今後どうするべきか

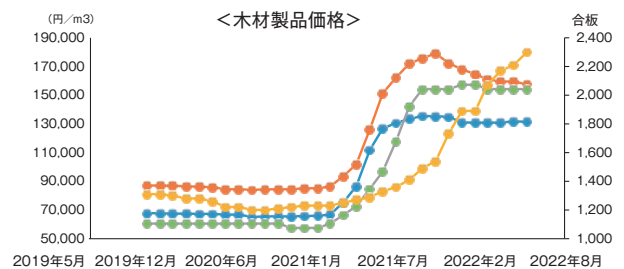
輸入材の急激な価格変動に左右されないためには、素材生産者⇔木材加工業者⇔工務店の信頼関係からなる県産材の安定取引体制を構築し、定期的に長期間の取引ができるような取組が必要です。

白川流域の川上～川中～川下の事業者が「白川LSC（ローカルサプライチェーン）システム」の包括協定（令和4年1月）を締結し、確約された木材需要とそれに対応する安定的な原木供給、製材品の安定生産を目指しています。

ウッドショックを教訓として、県では引き続き県産材の安定的供給体制の構築を支援してまいります。



グラフ① ※モクレボ令和4年10月号



グラフ② ※モクレボ令和4年10月号

【県産材流通課 田口 正英】



『里山再生セミナーNo.2

～関係人口創造・維持を目指して～』を開催します。

山林協会通信⑧

本誌9月号でお知らせしました、里山整備に興味のある方々が活動団体から里山整備の話を知る場として、「里山再生セミナーNo.2～関係人口創造・維持を目指して～」を下記により開催します。

参加を希望される一般の方は、「里山再生セミナー参加希望、氏名、連絡先（電話番号またはメールアドレス）」を記載した申し込み用紙（様式は自由です）を、「FAX」又は「メール」で協議会まで送付ください。なお、会場の都合から、一般参加者は20名（先着順：枠一杯で参加不可の場合は、連絡先にその旨お知らせします。）とさせていただきます。

- 申し込み先：岐阜県森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会（（公社）岐阜県山林協会内）
FAX: 058-273-3933 E-mail: sanrinag@quartz.ocn.ne.jp

申込書文例：里山再生セミナー参加希望

申込者：日本 太郎（〇〇市） 連絡先：090-XXXX-〇〇〇〇
（携帯等ご本人に直接連絡ができるものにてください）

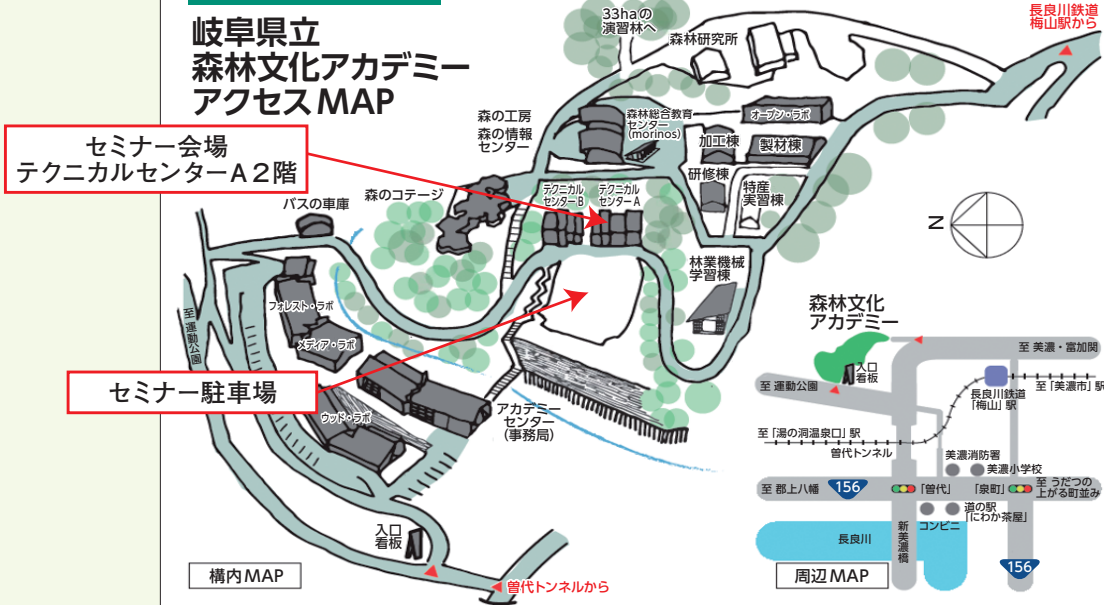
※E-mail の場合は連絡先は必要ありません。送付されたアドレスに返信します。

※電話ですと氏名、連絡先を間違えて記録する場合があります。申し込みは必ずFAXかメールでお願いします。

『里山再生セミナー No.2 ～関係人口創造・維持を目指して～』の概要

- 開催日時：令和5年1月27日（金）13時～16時00分
- 会場：岐阜県立森林文化アカデミー テクニカルセンターA2階研修室
- 主催者：岐阜県森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会
- 参加者：
 - ・県内の森林山村多面的交付金事業を活用して活動する団体（過去も含む）
 - ・協議会会員
 - ・里山整備に興味があり、団体の活動に参加を希望する個人（一般の方）
- 構成：
 - ・基調講演 講師：武藤貴子（むとう たかこ）（株）POUSSE代表
 - ・活動事例発表 二本木生産森林組合
NPO法人活エネルギーアカデミー木の駅プロジェクト
 - ・マッチングイベント 里山整備に興味があり、団体の活動に参加を希望する個人と団体との個別面談

セミナー会場案内図



【山林協会 瀬上 繁隆】



文：樹木医・日本森林インストラクター協会 理事 川尻 秀樹

お正月様を迎える風物詩の一つ「花餅、餅花」、お正月に生花が手に入り難かった昔、晴れの日を飾る一つが花餅でした。

その始まりは養蚕農家で小枝についた繭玉を正月飾りにしたとか、鏡餅を八百万（やおよろず）の神と万物に供える代わりに、小さな餅を小枝に沢山つけたとか言われています。

昔の花餅づくりは花餅株と呼ば

れる切り株を探す事から始まりですが、樹種はネジキ（飛騨ではカスウスギ、ネギなどと呼ばれます）、ヤマモミジ、エゴノキ、エノキ、クリ、ヤナギなどを用いました。

昔は餅を枝に繭玉のように丸めてつけ、梁や長押、壁に掛けるスタイルでしたが、いつしか床の間に置くスタイルが多くなりました。

高山の朝市で尋ねると、高山で作られた花餅は毎年東宮御所に送られ宮中で飾られるとのこと。また「雛祭り」には枝から餅をはがし、一昼夜水に浸してホコリを落としてから、油で揚げて雛あられ（花餅あられ）にした時代もあったそうです。

餅は日本では古くから、穀物の靈魂を形にすることができる食べ物とされ、餅を搗いて食べると人間の靈魂が再生されると考えられていました。伊勢神宮など各神社で大祭に供えられる「神饌餅」は円盤形の餅を重ねたもので、これ

が民間に伝わり正月に神に供える「鏡餅」になったのです。

神が宿ると信じられていた銅鏡に見立てて、丸くした餅を鏡餅と呼んだのです。「鏡」は「鑑みる」、つまり良い手本や規範に照らして考えるという意味の言葉にあやかり「かんがみもち」とも呼んだそうです。

多くの日本人は粘性の高い餅を好む人が多いですが、これは照葉樹林文化に共通する特徴とされます。一般にうるち米はアミロース2割、アミロペクチン8割とされますが、もち米は全てアミロペクチンとされます。

国立民族学博物館名誉教授 だった故 佐々木高明先生によると、こうしたもち種の作物を大量に栽培する慣行は世界的に照葉樹林帯以外では見られず、タイ北部、ラオス、ベトナムなどの東南アジア北部、中国華南省、江南省、台湾、日本で特に好ま

れるそうです。またこの地域は、漆を使い、お茶や麴酒を好むのも同じだそうです。照葉樹林の民は、米だけでなくアワやキビ、モロコシ、トウモロコシのモチ種まで選抜し育ててきた歴史があります。

同じ米を食してもインディカ米を主食とするインドでは、もち米は好まれないのだそうです。

餅は照葉樹林文化圏に共通する祝いの食であり、人と神を仲介する食物として、一年間の幸せを願う「晴れの日」に神前に捧げた餅を分けて食べる事で、神の祝福を受けようとする文化の名残なのです。



▲美濃市の今井家住宅に飾られた花餅



山のおじゃまむし



ー1.2.3ダアー、セスジスズメガー【第377回】

自然学総合研究所 野平 照雄 ● Teruo Nohira

夏が過ぎても我が家の庭にはたくさんの花が咲いている。家内がそれぞれの時期に咲く花を育てているからだ。このお陰でいろいろな虫たちが集まり、年中姿を見ることができる。今の時期、多いのがツマグロヒョウモン。朝から晩まで見ることができる。ある日、小学生の孫二人が「おじいちゃん、これなんなの」と車庫のコンクリート壁を指さす。地上から30cmのところには蛹が2つ付いていた。「ツマグロヒョウモンという蝶の蛹だよ。」と答えた。しかし、二人は「フーン」と言って興味を示さなかった。翌日の10時、1匹が羽化していた。ところが、まったく動かない。翅に触っても飛び出さないのである。そこでこの蝶を虫かごに入れ、夕方孫たちに見せた。「この蝶だったのか。庭にたくさんいるよ」と孫たち。すると「蛹から出てくるところを見たいなー」とYちゃん。2日後の(2022年9月30日)の午前8時、蛹から蝶が出始めていた。急いでビデオをとりに行った。Yちゃんに見せるためだ。この間、わずか3分。ところが蝶はすでに蛹から出て、ぶら下がっていた。Yちゃんの期待に添えず残念であった。それにしてもこんな短い時間で羽化するとは驚きであった。しかし、羽化後はほとんど動かず、3時間後に飛び立っていった。これは羽化するときが危険なので、出来るだけ早く成虫になる。これがこのチョウの生き残り戦術。そんな気がした。

× × × ×

その日の午後、玄関前で私自身初めて目にする幼虫を見つけた。多くの人は気味が悪いと言うだろうが、私には可愛い虫に思えた。独特の斑点模様。尻尾には一本の長い刺。これを上下にピクピク動かしながら走るように進む。やはり愛らしい。つかまえて、手のひらに乗せた。見ているうちに、孫たちはこの幼虫をつかまえるだろうか。ためしてみようと思った。その前にこの幼虫を調べた。



▲可愛い幼虫?

セスジスズメガという蛾であった。初夏から秋にかけ2回発生し、いろいろな植物の葉を食べる。我が家の庭にはいろいろな植物があるので、この庭で育ったのであろう。庭には昆虫以外にも、ナメクジ、ダンゴムシ、カナヘビなどの住人がたくさんいる。そこへ今回新たにこの虫が増えた。次の住人は何虫だろう。こんなことを思うだけで、何故かわくわくしてくる。この幼虫を孫たちに見せた。反応は違っていた。上二人は「気持ち

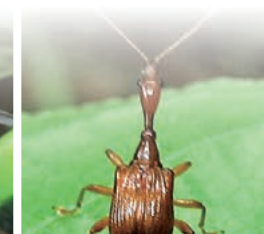
悪い」と触りもしなかった。しかし小3のUちゃんは「可愛い」と言って、手でつかまえて顔に近づけて見ていた。そのうちに小5のUちゃんは恐る恐る触るようになった。しかし、中1のM君は興味深そうに見ていたが、気味が悪いと言って触ることはしなかった。このことを母親に話したら「まったく臆病なんだから。もう中学生だよ」。声が大きくなった。

× × × ×

セスジスズメガは農作物の害虫として知られている。サトイモ、サツマイモ、ブドウなどに集団で発生し、葉を食い尽くしてしまうからだ。となれば我が家の庭にはまだいるはずだと幼虫を探し始めた。しかし、いない。どこかに身を隠しているのだろうか。植木鉢や肥料袋などをよけて探したものの、見つめることは出来なかった。庭には何匹ものツマグロヒョウモンがいた。オスが交尾のためメスに近づく。すると別のオスが来て争いになる。これがあちこちで見られた。オス同士が戦っている時、別のオスが来てメスと交尾をする。こんな要領のいいオスもいた。この蝶を観察していたら驚くべき光景を目にした。オスが花の蜜を吸っている時、1匹のスズメバチが襲ってきたのである。蝶は逃げる。スズメバチは追う。必死で逃げる蝶。どこまでも追う蜂。目が離せなかった。そのうちに鋭い口でメスの体に噛みつき、そのまま飛び立っていった。その後、数匹のスズメバチが襲ってきたが餌食にはならなかった。この攻防は30分続いた。しかし、その後はスズメバチは姿を見せなかった。厳しい自然界を垣間見るような気がした。

× × × ×

今日は充実した1日だったなーと思いながら、日課となっているテレビを見ながらの晩酌だ。味は格別。酒量が増えていく。しばらくしたらテレビで落語家の三遊亭円楽師匠と元プロレスラーのアントニオ猪木氏が亡くなったとの報道。驚いたと言うより、とうとう天国へ旅立たれたかと思った。お二人とも数年前から大病を患い病院生活だったからである。それにすごいと思うのはご両人とも、病気を隠すことなく人前に顔を出されたこと。多くの人は晩年のみじめな姿を見られたくないものだが、二人とも最後の最後まで人前に姿を見せていた。円楽師匠は死の2か月前に独演会を開いていたし、アントニオ猪木氏は車いすで人前に顔を出していた。そして必ず「元気ですかー、元気があれば何でもできる。1.2.3ダアー」と声を振り絞って右手をあげていた。この力強い雄叫び。もう耳にすることができない。さみしくなってくる。さようなら、猪木さん、円楽さん。



ぎふ木遊館通信

青く澄んだ秋空のもと、10月15,16日に毎年恒例のオータムフェスタを開催しました。

芸術の秋ということで、今年は音楽をテーマに『森の音楽会』と題し、スタッフが森の動物に扮して『山の音楽家』を来館者の皆さんと楽しく歌いました。16日には、名誉館長の竹下景子さんが来館し、葉っぱの帽子を被り、やさしい歌声で会場を盛り上げてくださいました。

バックで演奏してくださったギタリストの伊藤智美さんは、両日とも第2部でオリジナル曲も演奏。里山を想像させるようなどこかつかしいメロディで、にぎやかに遊ぶ子どもたちを見守る大人たちに癒しの時間を提供してくださいました。

他にも、ギャラリーを使って、子どもも大人も楽しめるプログラムを提供しました。

★『葉っぱでアート ～楽器カードをつくろう～』(両日)

色とりどりの葉っぱをおみせやさんのように選んで、楽器の形に切り抜いたカードに貼り付けたら、素敵な楽器カードの出来あがり!ギャラリーには木の楽器にまつわるクイズも用意し、子どもも大人も楽しんでいました。

★『けん玉であそぼう ～けん玉は芸術だ!～』(15日のみ)

ぎふ木遊館ではおなじみ、年代別(60代)けん玉世界チャンピオンの宮川さん。この日は、上手な子や大人には検定を、けん玉が初めての子どもには「たこやき」などの簡単な技でけん玉の楽しさを教えてくれました。

また、気候がおだやかな2日間は、当館の屋外テラスや駐車場、隣接する「ぎふ清流文化プラザ」の庭園も活用しました。

★『秋の空に飛ばそう! 割り箸鉄砲 紙飛行機 Ver』(15日のみ)

天候に恵まれた屋外テラスでは、郡上のスギを使った割り箸鉄砲に、ジェット機や鶺鴒の鶺鴒を模した紙飛行機を乗せて飛ばすコーナーを設けました。身近な木の道具である割り箸が楽しいおもちゃに変身。親子で製作し、秋空に向かってビューンと飛ばして楽しんでいました。

★飛騨高山のカラクリ屋台「指南車」の展示(両日)

NPO法人活エネルギーアカデミーのご協力により、青空に『映える』木製屋台が駐車場に登場!たくさんの親子がカラクリの不思議に興味をもち、カラクリ屋台に乗って記念撮影していました。

★体験型環境プログラム『地球の道』(16日のみ)

ぎふ清流文化プラザ庭園に設定した460mのコースを回り、46億年の地球の歴史を学びました。「もし地球がもう少し小さかったら?」「地球はこのあとどうなるの?」。そんな壮大なお話を、インストラクターの軽妙な語り口で少し視点を変えながら楽しく学びました。



ぎふ木遊館の利用時間を拡大しました

令和4年11月1日(火)から、木育ひろば及び赤ちゃんひろばの利用時間をこれまでの2部入替制から3部入替制へ変更し、利用者の増加と利便性の向上を図っています。午後のお昼寝のあと、夕食までの間に楽しく遊びませんか?

ご予約はぎふ木遊館ホームページ「事前予約のお申込み」から。

		10/31まで	11/1から
利用時間	第1部	10:00-11:30	10:00-11:30
	第2部	13:30-15:00	13:00-14:30
	第3部		15:00-16:30
1部あたりの定員		70名	70名
1日の定員		140名	210名



やがてみんなの森になる

morinos

プログラム紹介!!

岐阜県立森林文化アカデミー内にある森林総合教育センター（morinos）で実施しているプログラムについてご紹介します！

<森林文化アカデミー教員プログラム>

morinosでは、森に親しむ入口となる様々なプログラムを開催しています。今回ご紹介するのは、多彩な専門を持つ森林文化アカデミーの教員をゲストに迎えて実施する教員プログラムです。

今回は木造建築の構造を専門とする、小原勝彦教授をゲストに迎え、紙1枚からどれだけ強い柱を作れるかに挑戦する **morinosカップ** を開催しました。

morinosカップ（強い柱選手権）のルールは以下のとおり。

- 材料はA4コピー用紙1枚のみを使用する。
- 紙の高さがA4用紙の短手方向の長さより低くなつてはいけない。
- セロテープは使えるが、紙の接着のみに使用できる。
- 1人で何回制作しても良い。

最初は木片を1-2個しか載せられなかった柱でしたが、徐々に耐荷重が上がっていき、10個以上の木片にも耐える柱を作ることができるようになりました。これには参加者はもちろん、小原先生からも驚きの声が上がりました。

全員が計測を終了した後、小原教授から今回やった体験の意味について話していただきました。

実際の木造建築では、いろいろな制約（材料・予算・性能・法令等）がありますが、今回の「強い柱選手権」はまさにこの木造建築設計と建設を取り巻く実務の縮図とのこと。

試行錯誤を繰り返した後だけに、大人も子どもも皆、納得した表情で小原教授の話聞いていました。

まずはやってみる。やりながら考える。

参加者からは「紙にあんなに重いものを支える力があって驚いた」「学校の授業では、時間の制限や材料の制限があり、何度もやらせてもらえることはないように思う」「1人で何度も挑戦したり、協力しあったり、とても貴重な時間」との声がありました。

morinosが大切にしている体験からの気づきと学びが、木造建築の構造分野でも十分できたことを実感しました。

子どもも大人も、頭と体をフルに使った楽しいmorinosカップでした。

こうしたプログラムはmorinosのHPで開催をお知らせしています。多くの皆様のご参加をお待ちしております。興味を持ってくださった方は、morinosのホームページ、動画YouTubeをご覧ください。



小原教授の説明



まずはこんな形の柱を



こんな形でやってみたよ



11個の木片が載せられました

ホームページ <https://morinos.net>

開所時間 10:00~16:00

YouTube 検索「morinosチャンネル」

定休日 毎週火・水曜日



morinosHP



YouTube
「morinosチャンネル」

Takahashi Farm 豚舎

揖斐郡揖斐川町上南方991-1



施設全景

● 施設概要

事業年度	令和2年度
事業主体	株式会社 Takahashi Farm
構造 延床面積	木造1階建(ATAハイブリッド構法) 466㎡
施設用途	豚舎
木材使用量 使用樹種	37㎡ ヒノキ、スギ(県産材100%)
全体事業費	55,623千円
助成額	26,941千円(県産材需要拡大施設等整備事業)
設計者	株式会社 安田設計
施工業者	株式会社 久保田工務店
工期	令和2年12月~令和3年6月



施設の経緯

株式会社Takahashi Farmでは、豚熱等の防疫対策を徹底するため新たな施設を整備することとし、様々な構造・構法を比較検討した結果、長いスパンが確保できる、木材(集成材)と棒状の鋼材(タイバー)によるハイブリッド構造を採用しました。

令和3年9月以降当施設において養豚を再開し、現在、約400頭/年ペースで自家産の飼料米で育てた豚を出荷しています。



ここに注目!!

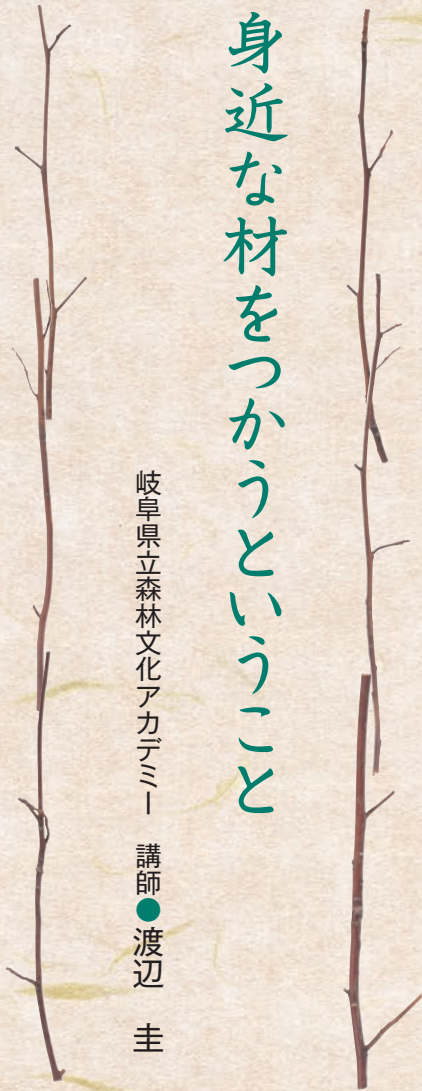
中間柱を使用せず、一般流通材のみでスパン12mを確保しました。

柱や土台、梁等には岐阜県産ヒノキ、垂木には同スギを使用し、水平方向の剛性を高めるために合板の代わりに火打ち材を使用しています。

■問い合わせ先
株式会社 Takahashi Farm
TEL 0585-22-0298

身近な材をつかうということ

岐阜県立森林文化アカデミー 講師 ● 渡辺 圭



校だからといってしまえばそれまでなのですが、自分自身もアカデミーでいろいろと体験してみると、北九州で感じていたほど森と日常はかけ離れているわけではなく、必ずしも大掛かりで高額な設備がなくても、身近な材を使うことは工夫次第でどの地域でも実現できることだと感じました。

2022年11月に美濃加茂市のリバーポートパークで冒頭で紹介したスギ材を使ったスツールづくりWSを実施します。

(記事の掲載時には終了しています。)美濃加茂市蜂屋町で森林整備をしている大洞里山整備隊が整備の中で間伐したスギを今回のWSでは使用します。流通している材とは違い、とても個人的な印象の板ですが、九州の材とはまた違う表情を見せてくれます(写真4)。アカデミーでは日常的に行われていることとはいえ、岐阜県内でもやはりまだまだ地域の材をそのままその場所ですというところは特別なことです。たくさんさんの地域でこういったことが日常になるように、情報発信をしていきたいと思っています。

からないとのことでした。

当時の私は家具工房を北九州市で営んでいましたが、北九州市は古くから八幡製鉄所をはじめとする鉄鋼関連の企業が多い鉄の街なので、林業が盛んな場所ではありません。地元の材を手に入れようと思っても手段がありませんでした。それでも少し郊外に行けば森もあり、緑豊かな公園も多々あります。身近なところにある木を使う事ができないもどかしさを感じながら、スツールづくりWSでは別の地域の材を使い、普段の家具製作でも遠い海外から運ばれてきた材で家具を製作していました。



写真1



写真2

もちろん家具用材として質の高い海外産の木材は最適で、出ま上がものも不具合が少なく、美しい仕上がりになります。すべての材を地元産のものでいうのではなく、使い分けていけばいいと今でも思っています。ですがさまざまな要因で木材の価格が上がり、輸送のための燃料費も高騰しています。少



写真3

しずつでも身近な材を使っていくことは、森林の荒廃や、雇用問題、環境問題などを解決する手段の一つになり得ます。

2年半前にアカデミーに赴任して驚いたことの一つは、身近な材を使うということです。アカデミーには隣接する演習林があります。そこで伐採されたスギやヒノキを建築や木工で日常的に使います。ときには近隣の市町村の公園で伐採された広葉樹も製材し(写真3)、簡易的に乾燥したあと木製品に変えていきます。もちろんそのための学



写真4

『森林・環境税』で“緑豊かな清流の国ぎふづくり”

県では、「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用し、県民みんなで豊かな自然環境を守る様々な取組みを行っています。こうした取組みの内容について連載で紹介します。

森林空間活用促進事業 ～県内の森林空間を活用した「森林サービス産業」の育成～

【背景】

新型コロナウイルス感染症の感染拡大や都市住民の健康志向の高まりから、都市型(室内)の活動が見直され、自然を活かした野外活動、サテライトオフィス、移住定住等が注目されています。

しかし、山村地域では、第一次産業を中心に産業の停滞や若者の流出が続いており、都市部のニーズに対応できる施設や体験メニュー等を持たず、収益を生む構造が構築されていません。

そのため、豊かな価値を有する森林空間を健康、観光、教育等の多様な分野で活用することで、山村地域に新たな雇用と収入機会を生み出す、「森林サービス産業」の育成に取り組む必要があります。

【事業概要】

- 「森林サービス産業」の育成と普及に取り組むため、事業者や市町村等による協議会を設立します。
(令和5年1月予定)
- 「森林サービス産業」に興味関心を持ってもらうためのセミナーを開催しました。

【取組状況】(令和4年11月末時点)

- (仮称)森林サービス産業推進協議会設立準備委員会を3回開催
- 森林サービス産業普及促進セミナーを開催



森林サービス産業普及促進セミナーの開催状況



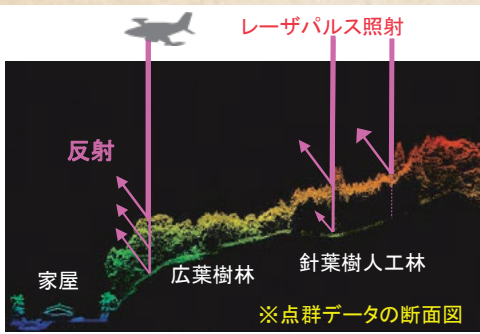


図1 レーザパルスが地物に反射する模式図

航空機から照射されたレーザパルスは、樹冠、中間の枝葉、下層植生などに当たりながら複数回反射し、最後に地表面で反射します。

林冠(林分の上層)が混んでいるとパルスが地表面に届かない場合があります。

間伐が遅れた人工林では、混んだ林冠が光を遮って林床まで光が届かず、下層植生が衰退してしまう場合があります。森林の水土保全機能を維持する上で下層植生の発達は重要であり、林床の光環境を改善し植生の回復を図ることも、間伐の重要な目的の一つです。

そこで、下層植生の状態を踏まえた間伐計画を立てられるようにするため、ヒノキ林を対象に貧植生(下層植生が乏しい)箇所を広域的に把握する手法の開発に取り組みました。

林では、パルスが地表面まで届かない場合があります。これを、鉛直方向からの光が地表面に届かない状態に似ていると考えて、林床の光環境が悪く貧植生である箇所の指標として使えるか検証を行いました。

パルスの地上到達率(11単位面積あたりにおける全照射パルス数のうち地上3m以下に到達した数の割合)を算出して図化したものが図2です。これを様々なヒノキ林の現地と比較したところ、ヒノキ林Bのような貧植生の箇所では、パルス到達率が全て1.5%以下になりました(注・今回使用した

針葉樹人工林における貧植生箇所を広域的に把握する取り組み

航空レーザ測量データの活用

森林研究所 ● 久田 善純

航空レーザ測量データの解析

森林の状態を広域的に捉える方法の一つとして、航空レーザ測量があります。これは、図1の模式図のように航空機から照射したレーザパルスが地物に反射した状況を計測することによって、地形や建造物、森林等に関する様々な情報を得る方法であり、おおよそ県全体の森林が測量されています。

図1に示すとおり、林冠が混んでいる林では、パルスが地表面まで届かない場合があります。これを、鉛直方向からの光が地表面に届かない状態に似ていると考えて、林床の光環境が悪く貧植生である箇所の指標として使えるか検証を行いました。

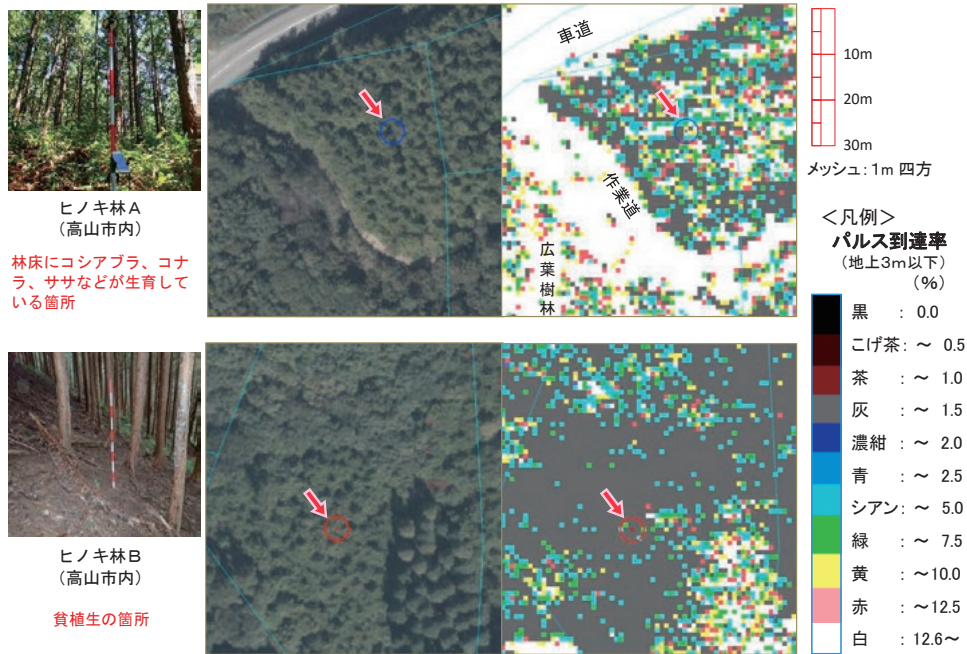


図2 レーザパルスの地上到達率(3m以下, 1mメッシュ単位)と現地の林床の様子(ヒノキ人工林)

ができず、尾根筋や林道脇では側方からの光が入り、パルス到達率が低くても植生が発達している場合があります。今後、各地域の事例を収集しながら、地形等の諸条件によって貧植生箇所把握の精度がどう変わるのか検証していく必要があります。

なお、この取り組みは岐阜大学との共同研究により行ったものです。岐阜大学では、航空レーザ測量データを用いて、下層植生の高さや植生率の評価に取り組みなど、さらに発展的な研究が行われています。

測量データにおける結果であり、測量時の仕様によりこの閾値は変わるとは思われます。

つまり、パルス到達率1.5%以下のメッシュ(GIS上では黒く灰色)とヒノキ林範囲とをGIS上で重ね合わせると、「貧植生である可能性が高い」箇所を示すこと

● 詳しい内容を知りたい方は
TEL 0575-331-2585

森林研究所まで



主伐・再造林の取組事例



■東濃農林事務所林業課

林業普及指導員 大重 隆太郎

東濃地域の再造林の状況

東濃農林事務所管内は多治見市、瑞浪市、土岐市の3市からなり森林面積は24,190haで森林率は63%になります。このうち瑞浪市、土岐市の公有林(88ha)では陶都森林組合と森林経営委託契約を締結し、森林経営計画に基づき、計画的に主伐・再造林を実施しています。

取組の概要

ウッドショックを起因とした木材不足を解消するため、瑞浪市稲津町地内の市有林において主伐・再造林の早期実施を関係者に働きかけました。同時に地域のモデルとなるよう再造林の調査区設定を瑞浪市等に提案し、ご協力いただけるとなりました。

まず、陶都森林組合が実施する伐採から植栽までの一貫作業に関わる生産性とコストを把握し、その課題を明らかにしました。

また、陶都森林組合では、当初は幼齢木防除資材にチューブ式を採用する計画でしたが、ヒノキの検証事例は少なく、スギではネット式の成績、成長が良かったことから、一部をネット式として、防除資材の比較を県森林研究所と協働で検証することにしました。同時に忌避剤による防除調査区も設定

し、さらに下刈強度の差による獣害成長等を比較、検証するための調査・研究に協力します。

瑞浪市有林の主伐・再造林(3.60ha)

H27年度に列状間伐を実施



陶都森林組合への支援

陶都森林組合では、プロセッサはレンタル機を使用するため、日頃から借入期間を短縮するよう造材前の整理を徹底しています。伐採後の集材は自己所有の単胴ウインチ付きグラップルで作業道沿いに同じ方向に揃え、効率よく造材を行っています。



今回、ササを刈り払う準備工も含めた生産性を直近の類似実績(石砂酒団地)と比較しました。

直営の林産班は技術力が高いことに加え、現場の段取りも良く、生産性は良い結果となりました。また、材価の良い時期に出材できたので収益を再造林や林道の補修経費に充当することが

できました。

一方、再造林等は臨時雇用の方が多かったにもかかわらず効率的に実施できました。施工性には土壌条件(土の固さ)が影響すると考えられます。

生産性の把握

陶都Fの林産班(30代の2名)

面積: 3.77ha
材積: 735m³
人工数: 74人日(準備工36人日含む)

生産性: 9.93m³/人日

土岐市石砂酒田地
(392m³)

8.00m³/人日

植栽・幼齢木防除(チューブ等設置)

面積: 3.48ha(プロットF除く)
本数: 8,900本
人工数: 87.3人日
(再任用技術者2名、臨時4名)

作業効率: 1.02本/人日

土岐市石砂酒田地
(1.61ha)

8.6本/人日

反省点としては、請負先の確保や、労務の調整が難しく植栽時期が厳冬期の一月になってしまったことです。活着が良いといわれるコンテナ苗を使用していますが、少しでも活着率を高めるため、県森林研究所から事例を学びました。植栽開始時の技術指導では、具体的に森林土壌の構造を説明するとともにA0層を確実に除いてから専用器具で程良いサイズの穴を空け、根鉢を密着させて植えるよう実践しました。A0層を除くことで寒風から根の乾燥を防ぎ、枯損リスクが抑えられます。

なお、忌避剤の散布は補助事業の対象外として県森林研究所が実施するとともに現地確認と技術指導を仰ぐよう調整しました。

今後の課題

チューブが寒風を防ぐ効果もあり、苗木が枯れることはありませんでした。ただし活着しても春先の初期成長に影響を及ぼす懸念があるため、経過観察を継続しますが、何より大切なのは適期に植栽することです。

なお、残念なことに忌避剤散布後に伸びた先端(頂芽)がニホンジカなどの被害にあってしまいました。補植と獣害対策の再検討が必要です。

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 0572-231111 内線2600

東濃農林事務所まで

「最初に丁寧な植栽を現地指導」



土壌断面の層位区分

A0層: 有機物層 L層: 落葉層
F層: 腐葉層
H層: ほとんど分層
A層: 表層「腐食が多量に含む」
B層: 下層「A層より腐食が少ない」
C層: 基層「腐物質が風化した母材層」



左上: 初日に断面図を示してA0層を説明A0層を除いてから専用器具「ディブル」で穴をあけることを実践した。

左下: 忌避剤散布時、森林研究所の指導

GNSS測量機器が農林事務所に配備されました

スマート林業通信 30

森林経営課が各農林事務所にGNSS測量機器(ARUQ+Geod e)を配備し、森林整備事業の検査や測量業務に使えるようになりました。

しかし、配備された機器には地図情報がインストールされておらず、計測してもどこで計測しているの現地を確認できず、使いにくいという改善の意見が寄せられました。

森林文化アカデミーでは地理情報処理の技術を活かしてスマート林業を進めるため、各農林事務所の機器1機1機に背景地図のインストール作業を行い、農林事務所職員を対象に操作講習会を開催して機能を改善した機器の引渡しを完了しました。農林事務所職員が模範となって機器を使用することでGNSS測量が一層普及することを期待しています。

スマートフォンとして他に、

令和4年中に携帯電話の通信圏外でも通信を可能にする機器(シオ

チャット子機)を森林文化アカデミーから各農林事務所に3台ずつ配備します。1月には林業普及指導員等が携帯して歩きますので、林業普及指導員から機器を借りて使用感を試していただき、市町村、林業事業体でも機器導入をご検討ください。1~3月には林業関係者向けの研修会も開催します。



▲GNSS測量機器研修風景(9月29日開催)

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 0575-13512535

森林文化アカデミー

スマート林業推進係まで

日本の文化を守る ヘリコプター集材

中津川市を中心とした東濃地方は「裏木曾」とも呼ばれ、古くから木曾ヒノキをはじめとする良材の産地で、東濃森林管理署(旧付知営林署)所蔵の文献によれば、昭和24年度以降でも、法隆寺再建、東本願寺の修繕、出雲大社復興用材、明治神宮社殿造営、浅草本願寺本堂天井修繕、皇居宮殿造営用、錦帯橋補修、宇治橋作替等々(年度順)、日本を代表する神社仏閣等に用いられてきました。

特に20年に一度行われる伊勢神宮の式年遷宮や姫路城の大神守修築用に使われてきたことは、度々テレビ番組にも取り上げられてきたところ
です。

このような良材の産地ですが、それらが今日まで伐り尽くされることなく残されてきたことには、大きく2つのことが考えられます。

一つ目には、木曾を含めたこの地は古くから幕府の蔵入地(直轄領)とされてきた後、江戸期(1600年代

後半)には木曾ヒノキ資源の枯渇に危機感を持った尾張藩により「巢山」(留山)として禁伐の措置がとられてきました。

明治に入り、この地は御料林(皇室所有の森林)として扱われてきたほか、明治の終わりには神宮備林(現在は「木曾ヒノキ備林」と呼ばれています)に設定され、御造営用材(式年遷宮用の材)の森林として守られてきました。

二つ目には、急峻で非常に険しい場所に生育しているため、木材の搬出が非常に困難であったことから今日まで守られてきました(2021年9月号・10月号の国有林の現場から「木曾式伐木運材図会」の世界)で木曾の山々から苦勞して木材を搬出する様が紹介されています。

そのような貴重な木材ですが、近年特に良質の大径材が入手困難な状況にあります。伝統建築物などの維持修繕等に用いる良質材のニーズ

に因應するため、東濃森林管理署では、自然環境や後継樹(伐採跡地付近に残った樹木で次の森林になるもの)の育成等に配慮しながらヘリコプターによる集材(木材を山から卸し、集める作業)を行っています。



▲集材に向けて飛び立つヘリコプター

ヘリコプターによる集材は、伐採した木材をその場でつり上げられるため、林内を荒らさないこと、広範囲に点在する材を集材できること、集材スピードが速いなどのメリットがあります。逆に、コストがかかること、ヘリポート・荷下ろし土場(山から出てきた木材を一時的に貯めておく場所)の広い場所の確保が必要になること、荷掛手(ヘリコプターへ木材を吊す人)・荷卸手(木材を卸し安全な場所へ移動させる人)に多くの人員が必要になることなどのデメリットもあります。



▲木材を吊り下げたヘリコプター

特に早い時は2〜3分間隔で木材が次々と土場まで運び込まれてくるため、先山(伐倒した木があるところ)の荷掛手は次の木材まで急いで向かい、荷卸手は次の木材が運び込まれる前に木材を集積場まで移動させるなど、息つく暇もないほどの状況となります。



▲木材を土場へ下ろす様子

こうした作業に従事する方々の努力により、今日も日本の文化が守り育てられています。

(東濃森林管理署)

開催日	行事名等	内容等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	場所
			申込(問合せ)先/TEL
12月7日(水)~ 12月9日(金)	伐木等の業務 (チェーンソー)に係る 特別教育	●講習時間 7日 学科 8:50~17:10 8日 学・実 8:50~12:00 9日 実技 8:30~17:40 ●申込:開催日の10日前まで ●受講料:23,870円(本代含む)(振込み) ●定員:30名(定員になり次第締め切ります。)	7日(学科)8日(学・実) ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東 2-5-6) 9日(実技) 県森連岐阜林産物共販所(関市倉知字物見山) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
12月14日(水)~ 12月15日(木)	木材加工用 機械作業主任者 技能講習	●講習時間:14日~15日 8:30~17:40 ●申込:開催日の10日前まで ●受講料:17,600円(本代含む)(振込み) ●定員:30名(定員になり次第締め切ります。)	ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東 2-5-6) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
1月12日(木)	造林作業の指揮者等 安全衛生教育	●講習時間:8:50~16:50 ●申込:開催日の20日前まで ●受講料:11,200円(本代含む)(振込み) ●定員:30名(定員になり次第締め切ります。)	ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東 2-5-6) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
1月26日(木)~ 1月27日(金)	リスクアセスメント 担当者 安全衛生教育	●講習時間:26日(林業) 9:20~16:30 27日(製造業) 9:20~16:30 ●申込:開催日の2週間前まで ●受講料:12,000円(本代含む)(振込み) ●定員:30名(定員になり次第締め切ります。)	ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東 2-5-6) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
2月2日(木)	刈払機取扱作業 安全衛生教育	●講習時間:学科 9:00~15:20 実技 15:30~16:30 ●申込:開催日の10日前まで ●受講料:11,550円(本代含む)(振込み) ●定員:30名(定員になり次第締め切ります。)	ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東 2-5-6) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
2月8日(水)~ 2月10日(金)	伐木等の業務 (チェーンソー)に係る 特別教育	●講習時間:8日 学科 8:50~17:10 9日 学・実 8:50~12:00 10日 実技 8:30~17:40 ●申込:開催日の10日前まで ●受講料:23,870円(本代含む)(振込み) ●定員:30名(定員になり次第締め切ります。)	8日(学科)9日(学・実) ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東 2-5-6) 10日(実技) 県森連岐阜林産物共販所(関市倉知字物見山) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
2月14日(火)~ 2月17日(金)	フォークリフト 運転技能講習 受講資格 自動車普通運転 免許所持者	●講習時間 1日目 学科 8:50~17:05 学科試験 17:10~18:10 2~4日目 実技・試験 8:00~17:30 ●申込:開催日の20日前まで ●受講料:32,450円(本代含む)(振込み) ●定員:20名(定員になり次第締め切ります。)	(学科) 伊自良中央公民館(山県市大門 912-1) (実技) ぎふ農協 旧伊自良共選場(山県市洞田 127-5) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195



コラム

「にゃーにゃー」と毎朝お迎えしてくれる、我が家の愛猫「おから」ちゃん、生後7ヶ月となる甘えん坊です。今年の8月に里親となってからは猫のお世話をするのが楽しみで、家庭内の癒しとなっています。甘えたいときは全力で身体をこすらせてくれる愛くるしさが、我ながらベタ惚れです。ただ、いたずらモードに切り替わると、部屋中で大運動会が始まり、エアコンの上にも行き来可能に。お陰様でダイニングの家具たちは、自慢の爪でボロボロにされました。覚悟はしていたものの、少しずつ傷ついていく家具たちを見ると悲しくなるものですね。

生き物と寄り添うには、愛情を注ぐだけでなく自分にとって不都合なことでも、個性と理解することが大切だと思いました。これから、すくすく成長していく姿に期待しつつ、デブ猫にならないように可愛がっていきます。

「森林のたより」編集委員 畑中 慎

COLUMN

イベント情報

1月1日発行

連載

- 山の歳時記(209)
- 山のおじゃまむし(378)

地域の人

清流と森と親しむ

- 森林と人を活かす知恵(120)

木と親しむ

- 岐阜県の公共木造建築(118)

清流の国ぎふ森林・環境税

森林・林業技術

- 研究・普及コーナー

市況情報

その他

1月号
予定

木材市場

木材市況 県森連 岐阜・飛騨・東濃林産物共販所

単位:円(1㎡当たり)

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	気配	
第1805回 岐阜共販所	すぎ	3 m	16~18cm	17,200	—	→	
		4 m	16~18cm	15,700	—	→	
			20~22cm	16,700	—	→	
			24~28cm	16,500	—	→	
		30cm以上	15,600	25,900	→		
	6 m	16~18cm	—	—	→		
	11月1日	3 m	16~18cm	23,300	—	↘	
			20cm以上	20,700	—	↘	
		4 m	16~22cm	22,600	—	↘	
			24~28cm	19,900	—	↘	
30cm以上		19,700	63,800	→			
6 m	16~18cm	—	—	→			
第1392回 飛騨共販所	すぎ	3 m	16~22cm	17,000	—	→	
		4 m	24~28cm	16,000	—	→	
			30cm以上	15,000	28,300	→	
	11月2日	ひのき	3 m	16~18cm	23,300	—	→
			4 m	20~22cm	22,000	—	→
				24~28cm	19,900	—	→
		30cm以上	19,700	—	→		
		6 m	16~20cm	—	—	→	
	ひめこ	4 m	24~28cm	12,000	—	↗	
		30cm以上	13,000	20,500	↗		
5 m	30cm以上	—	—	↗			
くり	4 m	24cm以上	15,000	—	↗		
第1724回 東濃共販所	すぎ	3 m	16~22cm	17,200	—	→	
		4 m	24~28cm	16,500	—	→	
			30cm以上元	14,500	90,500	→	
	11月10日	ひのき	3 m	16~22cm	22,500	—	→
			4 m	24~28cm	19,500	—	→
				30cm以上元	25,000	106,900	→
		4 m	13cm以下	10,000	—	→	
			24~28cm	19,000	—	→	
	30cm以上元	25,000	160,000	→			
	まつ	4 m	22~28cm梁	—	—	→	
30cm以上元		11,000	—	→			

※単価は直材価格、但し平均値は並材二番目価格。気配は、前回事との比較。

記念市(第10回ぎふ優良材展)を東濃林産物共販所で開催。
県内森林組合・森林管理署より優良材が集まり、活発な入札。

【商況】

ヒノキは全体的に需要が緩み価格は弱含みが続いているが、ヒノキ3・4m元木尺上良材は引き合いは強い。スギは全体的に安定した需要に支えられ保合。スギ4m元木中目、尺上良材は、活発な応札がみられ引き合いは強い。製紙向けパルプ材、発電向け未利用材ともに原木不足感が強く需要高。(岐阜)

ヒノキ、スギは前回事とほぼ横ばいとなっているが、スギ社木等良材の引き合いは強い。また、伐り旬が始まったヒメコマツは特に引き合いが強かった。広葉樹の用材、薪材ともに引き合いは強く、特にホウ、クリ、ナラが強い。高値マクルミ2.2m×42cm@48,800円ナラ2.1m×48cm@48,200円クリ2m×38cm@34,700円(飛騨)

スギ・ヒノキ全般に新材の大径良材に高値がつき、県内外からの引き合い多数。強気、強保合での展開。ヒノキ元木4m×44cm@160,000円、スギ元木4m×62cm@90,500円等高値多数。ヒノキ3m構造材は、引き合いは多いが価格は保合。4m土台取りは弱保合。スギ4m中目尺上元木良材、選木は、活発な応札がみられ強保合。今後、冬期に向け同様の気配。3、4m構造材向けは、旺盛な需要に支えられ保合での展開となった。他の高値ヒノキ元木5m×48cm@150,600円、コウヤマキ元木5m×42cm@250,000円、モミ元木4m×50cm@43,200円他(東濃)

製品卸売標準価格 (10月期)

単位:円

樹種	用途	寸法(mm)			等級	m ³ 当り 価格	(本(枚)単価)	前月 比較
		長	巾	高				
スギ	柱	3000	105	105	1等	90,000	(2,977)	→
	間柱	3000	105	30	1等	100,000	(945)	→
ヒノキ	土台	4000	105	105	特等	110,000	(4,851)	→
	柱	3000	120	120	特等	100,000	(4,320)	→
6000		120	120	特等	170,000	(14,688)	→	
W集 ウッ ド材	柱	3000	105	105	国産5層	140,000	(4,600)	↘
		3000	120	120	国産5層	125,000	(5,400)	↘

※日刊木材新聞調べ(名古屋標準相場 全てKD材)

外材市況 (10月期)

単位:100円(1㎡当たり)

樹種	規格	価格	前月比較
米松	SSタイプ	522	→
	コースト(目荒)	522	→
米榎	ヘム(アラスカ産)	468	→
米ひば	ポール	—	—

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場(径級は30cm上、米松コーストのみ大阪相場)

これってなあに? ~ 木材用語 ~

システム販売

国有林材の安定供給システム販売事業の略称。国有林材の販売方法の一つで、森林管理局長の公告に対し事業者が国産材需要拡大への提案、希望数量・価格などを応募して協定(契約)を結び、計画的な供給が行われる制度。事業者にとっては丸太確保の見通しが立てやすくなる利点があるので増加傾向にある。近年は、民間の原木流通業者(市場など)と需要者(メーカーなど)による契約販売についてもシステム販売と呼ばれる場合がある。

(参考)日刊木材新聞社 木材・建材用語辞典